

第3章 紀州徳川家の時代



時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
昭和(戦後)・平成時代	



浅野氏と和歌山城

浅野幸長の入国

浅野幸長は、豊臣秀吉の妻おね（北政所）の実家浅野長政の長男として、1576（天正4）年に生まれました。1593（文禄2）年11月、幸長は父とともに甲斐国（山梨県）21万5,000石を秀吉から与えられました。1600（慶長5）年の関ヶ原の戦いで徳川家康に味方した幸長は、同年10月、手がらによって紀伊国を与えられました。それまでの紀伊国は、1585年に秀吉が紀州を平定して以後、秀吉の弟秀長の領国とされ、秀長の家臣桑山重晴が和歌山城代として和歌山に、杉若氏宗が田辺城に、堀内氏善が新宮城に配置されていました。

紀州に入国した幸長も、和歌山城が領地の北部にかたよっていることから、紀南地域の支配を固めるため、田辺に浅野知近、新宮に浅野忠吉を配置しました。そして入国まもない1600年10月に9か条の覚書を、同年11月にも定書を出しました。そこには年貢の納め方や調査、代官の行為の制限や法にはずれた行為に対する農民からの訴えを認めることなどを記しています。さらに翌年、紀伊国全体にわたる検地を実施し、年貢とりたての基礎を固めました。



和歌山城

和歌山城の修築

和歌山城は、1585年の秀吉による紀州攻めのときに、秀吉が紀伊国を支配する拠点として築城をはじめました。浅野幸長の入国前の和歌山城の大手（正面）は現在の岡口門でしたが、浅野氏によって一ノ橋に変更されました。これによって、大手道も岡口門から東にのびる広瀬通丁から、京橋から北に向かう本町通りに変更されました。

また、幸長は和歌山城を37万石の大名にふさわしい城にするため、大規模な修理を行いました。

石垣用の石は、桑山氏時代に使用された緑泥片岩（青石）のように板状に割れる心配もなく、見栄えもよい和泉砂岩を用いました。和歌山城の石垣には、山形やひし形を重ねたもの、二重丸印、三角形の中に大の字を彫ったものなどたくさんの刻印が見られます。これは、石切りや石積みを担当した浅野家の家臣が刻んだ家紋や馬印と思われます。

天守閣は、三層の大天守・小天守・隅櫓を多門によって連結した連立式天守閣で、慶長年間（1596～1615）の中ごろに築造されたと考えられます。このときの天守閣は現在のような白壁ではなく、岡山城（岡山県）や松本城（長野県）のような板張りでした。ちなみに、この天守閣は1846（弘化3）年7月26

日の落雷^{らくらい}によって焼失しました。1850（嘉永3）年6月に再建^{さいけん}されましたが、それもまた、第二次世界大戦末期の1945（昭和20）年7月9日の和歌山大空襲^{くうしゅう}によって再び^{ふたたび}焼け落ちました。現在の天守閣は1958年に外形をそのままにして復元^{ふくげん}したものです。

城下町の整備と教会建設

一般に城下町とは、^{へいのうぶん りせいさく}兵農分離政策の進行にともなって領主の家臣団と商工業者を城の周辺に住まわせて町にしたものです。浅野幸長は、紀州入国の翌1601年に町割^{まちわり}をして城下町^{じょうかまち}としての形を整えたといわれています。浅野氏時代の城下町の範囲は、和歌川・北新町川から西部と寺町から北部で、北と西は紀ノ川で限られた地域と考えられています。浅野氏は、和歌山城の大手を東向きから北向きに変更しましたが、城下町の絵図^{えず}から推測^{すいそく}すれば、町の並び方が東西方向になっているところは大手が東向きのころ、南北に長い町は大手が北向きになってから町割されたと思われます。

浅野氏時代の和歌山城下について、宣教師ムニョスは、1607年の本国（スペイン）への報告書^{ほうこく}の中で、「和歌山城は美しく堅固^{けんこ}で、町は非常に美しく、2万人近くの住民がいて家屋もきれいで、あらゆる物資^{ぶつし}に恵まれ、人々は親切で霊の救いを望んでいる」と述べています。ムニョスはまた、山城国（京都府）を除くと紀伊国が最良の土地であると賞賛^{しょうざん}しています。その理由として、土地がよく肥えており、良い港に恵まれ、イスパニア（スペイン）で産するものが何でもあり、気候も温和で空が美しいことなどをあげてい

ます。

また幸長は持病を治してくれたフランシスコ会宣教師に感謝^{かんしゃ}し、1606年に和歌山に教会と病院を建設しました。この教会には、説教を聴くため、300人から500人の人々が集まったと伝えられています。

このように宣教師の手紙から、自然に恵まれ、美しい和歌山城を中心に町が整備^{せいび}され、2万人近くの人々が礼儀正しく生活していた浅野氏時代の和歌山の姿がわかります。



和歌山城下絵図 (和歌山県立博物館蔵)



現在の和歌山城下